

令和7年度西尾市一般会計補正予算（第2号）に対する原案反対討論

鈴木規子

私は、令和7年度西尾市一般会計補正予算（第2号）に対して原案反対の立場で討論いたします。

反対する理由は2点あります。生涯学習センター（仮称）整備工事に要する経費の補正額3億9千万円についての妥当性、そして、市長の財政規律を無視した事業の進め方についてです。

補正額は、当初予定の工事経費20億円の2割に及びます。3月末に実施設計が完了した後の変更は3点。人件費と資材費の高騰で1億円、地質調査によって、既成のコンクリート杭から鋼管杭161本への変更で1億9千万円、子どもの遊び場450㎡の1割45㎡を拡張する費用1億1千万円の合計3億9千万円とのことです。

生涯学習センターの建設は、そもそも、国の補助金が6億乃至7億円得られるという想定していない情報から始まっており、そのため、3か年計画にも入っていなかったにも関わらず、急遽、決定されたことは皆さんご存じの通りです。

議会は全員一致での賛成であり、私自身も賛成はしましたが、同時に、議会からは厳しい注文がつけました。すなわち、公共施設再配置の原則に沿った事業とすること、建物はイニシャルコストを抑えるデザインすること、ランニングコストにも十分に留意して進めること、そしてまた、整備工事費も20億円を上回らないことが要望されました。

ところが、今回、その2割の増額ですから驚きます。人件費と資材の高騰はやむを得ないとしても、地質調査の結果とされる「コンクリート杭から鋼管杭への変更による1億8千万円の増額には疑義を感じます。予定地の地盤が悪いことは周知のことです。事前の準備、調査はできなかったのか？ 基本設計のコンクリート杭の価格に上乗せでの1億9千万円の増額はとても納得できません。

子どもの遊び場ワクワク広場の拡張費1億1千万円は妥当なものでしょうか。コンペ方式で決まったデザインは、とてもスタイリッシュで立派なものですが、遊び場の床面積を1割増やすためには、屋根部分も広げる必要があったというのですが、そこまでして拡張しなければならないものかが疑問です。この点を追及されると、副市長は、いみじくもコンペのデザインを大事にしたいと洩らしています。

この事業を当初から担当し、基本設計までかかわった職員は、PFI契約の担当者でしたが、あの問題からまったく学習していません。職務とはいえ、今回の事業

については極めて乱暴な進め方と言わざるを得ません。これでは、あとの担当者は苦労しますし、そもそも職員のモチベーションが下がります。これらが示すものは「市長の人事采配が問題である」ということです。市長自ら職員のやる気を失わせてどうするのですか。

委員会質疑では、市長の特命によって、急遽、当初計画にはなかったワーキンググループが作られ、内容に変更が加えられたことが明らかになりました。

「子ども広場について、もっと多様な空間、ハラハラするような空間づくりのアイデア」が求められ、ネット遊具を拡張することなどが採用されたわけです。アイデアに関しては、「お金のことはさて置いた遊び場」の提案が求められ、「水の遊び場 1 億円」などというものもあったようです。

しかし、一番の問題は、ワーキンググループの結論が基本設計に間に合わなかった点です。その計画性のなさ、そして、財政規律を市長自らが無視し、議会の要請を軽んずることは許されません。市長に猛省を求めるものです。

私は、市長が、子ども広場をより良いものにしたいと工夫することは評価しましょう。しかし、それならば、全体計画を遅らせ、基本設計にキチンと変更内容を盛り込むべきでした。本設計費は 2,718 万円、実施設計には 8,846 万円が投じられているのです。それぞれの場面で、経費削減の工夫の余地があったのではないかと思います。

議会内では、今回の増額だけで済むのかどうかを疑問視する声すらあります。市長がどうしても、ご自分の提案を通したいのならば、市長自身が事業の取捨選択をするのがスジでしょう。計画中の事業のどれかを止めて、生涯学習センターを選べばよい。2つをひとつにする、または温水プールを止めて、子ども広場を充実させたいと訴えるなら、市民も理解を示すかも知れません。ところが、そうではない。市長は欲張り過ぎです。あなたのお金ではないのです。

さらに、私が問題だと思うのは、80 年間の維持管理費です。これも、議員にはなかなか示されず、今議会で初めて、80 年間で 31 億 1 千万円と公表されたものの詳細は不明です。小規模修繕、当然、大規模修繕も必要となりますが、それらが反映された金額とは到底、思えません。

普通建設費は令和 2 年の 85 億円が 6 年度は 158 億円に膨らみ、今年も 131 億円です。さらに、温水プール建設計画など大型建設事業が目白押しなので、そこに今回のようなごり押し、後出しジャンケンをされては市民は、たまったものではありません。建物は初期投資額だけでなく、その後 80 年に及ぶ維持管理費用、

運営費用と莫大な経費がかかることを市長はもっともっと自覚すべきであります。

借金は、子どもたちが背負うのです。中村市長には、将来世代のことを考え、身の丈に合った行財政運営を強く求めて、私の原案反対討論といたします。